

【3. 学生及び研究者支援】 ⑧その他

支部名	大学名	活 動 実 績
東北	岩手大学	<ul style="list-style-type: none"> ○被災学生の修学支援を目的とした「被災学生支援募金」の呼びかけを行い、289名の学生に修学支援金として募金を給付した。 ○被災した学生へ修学支援金を貸与した。 ○経済的援助が必要な学生や内定取消を受けた学生、更には心のケアが必要な学生への相談窓口を設置した。 ○引越が困難な卒業生の引越荷物の一時預かりを行った。(4月下旬まで) ○同じく引越が困難な卒業・修了生のアパート等の退去延長を、不動産業者へ要望した。 ○新入生に対する入寮の追加募集を行った。(入居募集4/4~4/15、入寮者決定4/21)
東北	東北大学	<ul style="list-style-type: none"> ・従前の入学科・授業料免除等の申請手続期間延長(約2ヶ月間) ・被災学生への経済的支援(入学科・授業料の免除、奨学金給付、応急学生寄宿舎など)
東北	宮城教育大学	<ul style="list-style-type: none"> ○被災学生のメンタルヘルスケア ○被災学生の優先入寮 ○被災学生に対し学内(大学会館)に臨時の居住場所を設置(4月末まで) ○被災により住宅確保に困難をきたしている学生に「応急学生寄宿舎」を提供し、18名が入居中(10月1日以降入居開始 平成24年度入学者用に10名分確保) ○被災により家計が急変し就学が著しく困難となった学生77名に対し、「東日本大震災宮城教育大学被災学生支援奨学金」として一人10万円支給(財源は、「東日本大震災宮城教育大学被災学生支援募金(9月30日まで受入)」の一部を充当)(H23.8) ○震災により自宅が全壊するなどした附属学校の幼児、児童、生徒58名に対し「東日本大震災宮城教育大学被災学生支援募金」から一人10万円の奨学金を給付(H23.10) ○附属特別支援学校に言語聴覚士を配置(H24.1.1~3.31)
東北	福島大学	<ul style="list-style-type: none"> ○緊急連絡HP、緊急連絡掲示板で情報提供。 ○経済的支援などのための義援金受入れを募集。集まった義援金を被災した学生へ配分。 ○メンタル面の支援のための相談窓口を開設。 ○学生よろず相談 twitter を開設。 ○放射線値を下げるため、キャンパス内の土砂の処分や側溝の清掃等の除染活動を実施。(7月6日~8月5日)(追加) ○キャンパス内屋外運動施設・課外活動施設及び中央広場芝生除染工事を実施。(11月~2月)3月より、中央広場インターロッキング舗装部分の除染を予定。 http://www.fukushima-u.ac.jp/guidance/top/torikumi-josen.html
関東・甲信越	筑波大学	<ul style="list-style-type: none"> ○被災学生1人(企業法学専攻2年生)の休学について、4月以降の届出であったが4月1日に遡り許可した。 ○人文社会科学部において、年度内に3回設定(5月、9月、12月または1月)している修士論文の提出期間のうち、5月提出者の提出期限を9日間延長した。 ○被災した世帯の学生に対し、緊急経済支援として被災状況により緊急支援金(20万円又は40万円)を支給した。 ○学生支援を目的とした義援金事業を立ち上げ、被災した世帯の学生に対し緊急経済支援を実施した。 ○震災直後から学内に臨時の総合相談窓口を開設した。 ○学生宿舎入居者に対し、学内厚生施設(食堂)に協力を要請し食事を配給及びつくば市等からの支援物資(飲料水、保存食)を配給した。 ○学生宿舎入居者からボランティアを募り、学生宿舎エリアの防犯パトロールを実施した。 ○学生宿舎の入居について、被災地の学生を優先するとともに、入居日について柔軟に対応した。 ○学生宿舎3月末退去予定者の留学生で、震災後一時的に母国等に避難中の者について、退去手続きを4月末まで延長した。 ○就職活動中の学生に対する個別対応した。 ○震災後の企業採用情報の提供等を行った。 ○現在も震災の影響を受けた学生に就職支援情報を提供している。 ○学生と教職員に向けて、「東日本大震災によるストレス」に関する講演会を開催した。 ○被災した学生、研究者への住環境と勉学、研究環境の提供(菅平高原実験センター)

【3. 学生及び研究者支援】 ⑧その他

支部名	大学名	活 動 実 績
関東・甲信越	筑波大学	<p>○筑波大学軟式庭球部員（体育4名・国際1名・生物資源1名・医学1名・数学1名・応用理工1名）と部長がOB・OG有志9名と共に2011年11月26・27日に陸前高田市に赴き、現地の被災状況を観察。2日間にわたり、高田高校女子ソフトテニス部と合同練習会を行い、テニスを通じた交流活動を行った。費用は、OB・OGの有志の寄付金と学生の自己負担による。その後も連絡を取り合っている。3月～5月に再度、訪問し、ソフトテニスを通じた交流と現地で復興ボランティア活動を行う予定。</p> <p>○日独友好150周年記念事業に伴うドイツ大統領のいわき市視察に随行（10月25日）</p> <p>○1月15日に宮城県山元町の少年野球チームを対象に硬式野球部員10名が野球教室を行った。</p>
関東・甲信越	筑波技術大学	<p>3月11日に発生した東日本大震災により被災した大学・短期大学（以下、大学）のうち、新学期の情報保障体制を整えるのが困難な大学に対して、遠隔地からモバイル型遠隔情報保障システム等を用いて、遠隔地からパソコンノートテイクによる情報保障支援を提供するための体制作りを開始した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月28日から4月中旬にかけ、日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）の連携大学・機関を中心に支援担当大学を募集した。 ・同志社大学（4月22日）、関西学院大学（4月23日）、早稲田大学（4月25日）に、支援実施のための技術講習会を実施し、計7大学の職員、学生に対して指導を行った。 ・宮城教育大学・東北福祉大学・東北生活文化大学・宮城学院女子大学に在籍する17名の聴覚障害学生のうち、遠隔支援の利用を希望している11名に対しての支援を5月から実施した。 ・宮城教育大学（5月13日）、東北福祉大学（5月13日）に、支援利用のための技術講習会実施し、計4大学の職員、学生に対して指導を行った。 ・5月から始まった1学期の間に、週20コマ、のべ260コマ以上の授業に支援を行った。支援担当校には13校が登録し、支援学生はのべ600名程度、実数でも80名以上の学生が本支援に参加している。 ・本支援は当初前期のみで終了する予定であったが、支援利用大学・支援担当大学の双方から継続を希望する声があがったため、後期についても規模を縮小して継続実施することとなった。 ・後期の授業では、週9コマ、のべ90コマ以上の授業に支援を行った。支援担当大学は14校で、支援学生はのべ230名程度、実数で50名程度であった。 ・いずれの大学も前期～後期を通じて支援体制が復旧したため、本支援の実施は2011年度を持って終了するとともに、本支援から生まれた大学間支援の体制を別途プロジェクトとして進めていくこととなった。
関東・甲信越	宇都宮大学	<p>○地域と連携し、被災学生向け民間アパートの無料提供の情報提供及び手続き支援（入居決定5件）を行った。</p> <p>○全てにおける相談対応窓口として「緊急学生相談窓口」を設置した。</p> <p>○原子力発電所事故に係る情報として、専門機関の最新情報を提供している。 http://www.utsunomiya-u.ac.jp/topics/for_student.html#about_20</p> <p>○留学生対応として、個別面談により震災の状況、計画停電、原発事故の状況について説明を行った。</p> <p>○留学生に対し、ホームページにより震災の情報をQ&A方式で提供するとともに、英文でも関係機関等へのリンク先を掲載した。 http://www.utsunomiya-u.ac.jp/topics/for_student.html#about_18</p> <p>○国外退去する留学生への対応として、交通機関等の運行状況の確認・手配の支援を行った。</p> <p>○新学期に向けたよくある質問への回答（FAQ）を作成した。 http://www.utsunomiya-u.ac.jp/topics/for_student.html#FAQ</p> <p>○授業料免除申請期間4月4日～4月8日までを5月13日まで延長した。</p> <p>○本学独自の授業料免除を実施した。</p> <p>○教育学部同窓会から16名の被災学生に見舞金を贈呈した。また、6月には新たに7名の被災学生にも見舞金を贈呈した。</p> <p>○被災学生83名に対し、本学教職員・学生から集めた義援金の中から奨学金を支給した。 http://www.utsunomiya-u.ac.jp/topics/index.php?id=322</p> <p>○学生後援会から、見舞金を57名に支給した。</p> <p>○内定取消や入社延期の状況を把握するとともに、岩手県、宮城県、福島県に就職が内定していた卒業生に連絡し、状況確認し、相談及び情報提供を行った。</p> <p>○震災の影響等で就職活動に支障の出ている学生を含めた進路未内定の学生のために、9月22日（木）に合同企業説明会を開催した。</p>